

CSW 報告 3月1日

【日 付】3月1日、10:00～11:30

【場 所】CCUN 11th Floor

【題 目】Gender Based Violence and the South Asian Migrant Women

【主催者】Bangladesh Society for the Enforcement of Human Rights New York Chapter, USA

【形 式】セミナー

【ゲスト】Dorchen Leidholdt

【内 容】国連の初代人身売買特別報告者の Sigma Huda によるオープニングの後、国際 NGO の Coalition Against Trafficking in Women 設立者で、地元のニューヨークで特に移民の DV 被害者のシェルターと法律支援サービスを提供している Center for Battered Women's Legal Services at Sanctuary for Families のディレクター Dorchen Leidholdt から、センターが支援した 2 人の東南アジア出身（バングラデシュとパキスタン）の女性が出身国から結婚してニューヨークに渡り、ともに夫とその家族から虐待を受けてセンターのシェルターに逃れ、そこで法的支援を受けてビザを取得、現在は経済的に自立して暮らしているという詳細な話を聞いた。DV の問題は世界中どこの地域でも、どんな立場の女性にも起こりうるが、移民女性の場合には言語が不自由であること、滞在許可がないことから家に閉じこもりがちになり、また故郷の家族や子どもに危害を加える、施設に送る、殺害すると脅迫されるなど一層弱い立場に立たされている。アフリカや欧米など女性の出身地域によってパターンは異なるが、東南アジアの伝統的な社会における、親による見合い結婚、ダウリー（持参金）、名誉殺人などの文化的・社会的・宗教的な要素を理解することが何よりも大切である。同センターではニューヨークにあるエスニックコミュニティとも協力し、被害者女性の出身国の言語や食事にも配慮し、裁判所で接近禁止命令や庇後申請等の法的救済措置を求め、また就学・就労支援も行っているそうである。その後質疑応答があった。

【感 想】司会者、主催者とも人身売買の問題についての世界的権威であり、直接話を聞く貴重な機会が得られたことに感謝している。人身売買は地域（送り出し国、経由国、受入れ国）、目的（性搾取、家事労働、農業、臓器移植等）、対象（女性、子ども、成人男性）、輸送手段が多種多様であり、またそのパターンも刻々と変化し、手口も巧妙化している。今回のセミナーでは東南アジアというコンテキストからこの問題を取り上げていたが、農村花嫁など日本でも同様の事例があり、人身売買と DV という二つの「女性に対する暴力」の関連性に改めて考えさせられた。日本国内で人身売買被害者に避難所を提供している数少ない施設の一つが DV 被害者用のシェルターである。Sanctuary for Families のようなきめ細かいサービスを提供するのはリソース面で極めて困難だろうが、警察との連携、エスニック・メディアを通じたシェルターの情報提供など日本でも参考になると思われる。（吉田）

【日 付】3月1日、15:00～15:50

【場 所】North Lawn Building, Conference Room B

【題 目】Asia Pacific Women's Watch Caucus

【主催者】Asia Pacific Women's Watch (APWW)

【内 容】議題は 1) APWW コーカスのステートメントについて、2) 合意結論へのインプット、3) 将来に向けた改善点、の 3 点であった。

1) CSW のセッションで APWW コーカスのステートメントを口頭で述べるようになっていたが、これまでに 2 回延期されている。今年は CSW が始まる 3 週間前に文書の提出を求められていたので、来年度に向けて起草作業は 10 月・11 月から準備を進めるべきである。2) 現在、合意結論案は NGO からのインプットで 22 ページにまで膨張しており、これ以上の文言の修正は歓迎されていない。

3) 前回のコーカスでも同じ議論があったが、国連ビルの改修工事を口実に NGO の参加が数・活動とも制限されている。1 団体につき 20 人までしか登録できず、今年は North Lawn Building に入るために二次パスが必要で、それも各団体に 1 枚しか発行されないというのが非常に不評であった。実際は二次パスが余っていたらしいが、どうすれば二次パスを入手できるのかの情報がうまく伝わらなかった。このような状況を踏まえて、AWPP の今後の活動を充実させるために、朝の NGO プリーフィングでコーカスの報告を行う、APWW として UN Women の幹部にアピール文を作成して送付する、コミュニケーション不足を解消するためにコーカスミーティングのメーリングリストを作成し、ミーティングに参加できなくても、意見や文書などを送付できるようにする、CSW のテーマ別専門家パネルに APWW から専門家を送り込む、在ニューヨークで国連の動きに通じている人に APWW のコンタクトパーソンとなってもらい、情報提供をしてもらう等の意見が出た。

【感想】前回と参加者の顔ぶれが異なり、またペーパーが全くないので（メーリングリストに登録すれば送付すると言われたが、送られていない）、ステートメント、合意結論への修正案がどのような状態にあるのか不明であった。将来に向けた取組も、結局その時その時の状況に応じて柔軟に対処するしかない、といった結論であり、他のコーカスと比べて実質的な議論があまり行われていない印象である。来年度の CSW のテーマは empowerment of rural women とアジア・太平洋地域が大きく貢献できる内容であるので、日本からの積極的な情報発信を期待したい。（吉田）

【日 付】3月1日、17:00

【場 所】2 UN Plaza DC2-1386

【題 目】Young Women's Caucus

【内 容】前回に続き、ドラフトについて、変更すべきであると思う点や言葉、付け加えが必要であると思う箇所について話し合った。参加者は YWCA やガールスカウトに所属するユースであった。今回はブルックリン YWCA のボニーもオブザーバーとして参加した。話し合いの前には、互いにパラレルイベントについての紹介も行った。

【感想】今回は、それぞれ国に帰ってしまった参加者も多くいたためか、前回とはだいぶ違うメンバーで行われたのだが、前回と同じ資料をもとに、きちんと話し合いが行われ、メンバー内での情報の共有がきちんとできていると感じた。また、配布されたドラフトが最新版でなかったといったミスもあり、全てにおいて完璧で、考えの及ばないような人々の集まりなのではなく、自分と同じユースの集まりであることを再認識し、親近感を覚えた。しかし、それと同時に、こういったドラフトなどに対して、ユースが、自分たちだけで何か変えようとしたり、意見を言って改善を求めるといった行動が日本では（自分の周囲だけかもしれないが）まだまだ少ないと感じ、ユースである自分ももっと自主的に行動を起こさなければならないと感じた。自分が参加して、委員もしている日韓ユースカンファレンスなどといった機会を逃さず、ユースとしてできることを精一杯しようと思った。それだけでなく、Y の先輩方がすでに手をつけられている問題や、プログラムにも積極的に参加し、意見を言い、時には同じ問題についてユースだけで考えて、意見を言う機会を自分たちで設けるといった自主性がやはり必要であると感じた。また、今回のように、ドラフトの微妙なニュアンスについてなどといった、難しいものにもチャレンジしていくことが重要であると感じた。（小山）